

歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

高等教育の修学支援新制度の対象機関公表

専門学校は慎重な選択を

学校種		学校数(A)	申請校数(B)	要件確認校数(C)	要件確認割合(C/A)
大学・短期大学	国立	82	82	82	100.0%
	公立	104	104	104	100.0%
	私立	892	861	861	96.5%
	計	1,078	1,047	1,047	97.1%
高等専門学校		57	57	57	100.0%
専門学校		2,713	1,696	1,689	62.3%

文部科学省は来年度から始まる「高等教育の修学支援新制度」の対象機関を9月20日(金)に公表し、30日(月)にその一覧を更新しました。上の表は10月18日(金)現在のまとめですが、国公立大学は要件確認された学校の割合が100%であるのに対し専門学校は約60%にとどまっていることがわかります。したがってこの支援制度を利用して専門学校への進学を考えている場合は、よく確認する必要があるということになります。具体的な学校名は文部科学省のホームページ (http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/1421838.htm) にありますので、そちらを参照してください。

この修学支援新制度に関しては以前にもこの便りで紹介してありますが、この制度は、意欲ある子供たちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金を大幅に拡充することによって、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校を無償化するという政府の方針に基づくもので、この度の消費税率10%への引上げによる増収分の一部を財源とすることになっています。対象となる人は世帯収入の要件を満たしていることと学ぶ意欲のある学生であることで、支援額は住民税非課税世帯の学生で私立大学に自宅外から通う場合、返還の必要のない奨学金が年額約91万円支給され、さらに入学金約26万円、授業料が年額約70万円を上限に減免されます。また、住民税非課税世帯に準ずる世帯の場合、これらの金額の2/3または1/3が支給されます（※家族構成や世帯収入で支給額は異なります。）自分がこの制度を利用できるか否かは以下のサイトで判定することができますので、利用してみてください。

進学資金シミュレーター <https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

1年生へ

進路目標の具体化を

間違いのない来年度のコース選択には、できる限り具体的な進路目標を持つことが大切です。企業名や学校名など、できる限り具体的な目標にする努力をしましょう。

2年生へ

学力向上の秋に

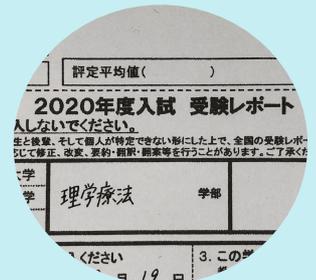
修学旅行も終わり3年0学期に向けて学力向上に努める時期です。3年生になる前にどれだけ力をつけるかがその後の大きな差となっていきます。

3年生へ

貴重な時間を大切に

高校生活も実質3か月ほどとなりました。進路が確定している人もそうでない人も貴重なこの時間を大切にしてください。毎日の振る舞いが未来につながっています。

受験レポート



3年生は就職試験や進学のためのAO入試や推薦入試を受験した後、その内容に関する受験レポートを作成しています。

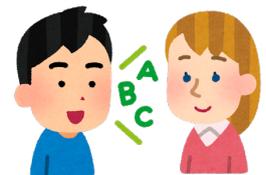
このレポートには筆記試験の内容や面接試験の形式と質問内容、さらに後輩の皆さんへのアドバイスが書かれています。

受験する企業や学校が決まって試験対策をする際に、まずやらないといけないことは過去にどのような試験が行われていたかを調べることです。その時にこの受験レポートが非常に役に立ちます。

受験レポートは進路指導室に保存されていますので、必要なときは進路指導室の用紙に記入して請求してください。



大学入試での英語民間検定試験活用状況



初年度は4年制大学の70.9%が利用

10月21日（月）、文部科学省は、2020年度に始まる大学入学共通テストに導入される英語民間検定試験について、その成績を提供する「大学入試英語成績提供システム」の利用予定状況を集計しその結果を発表しました。初年度は4年制大学の70.9%（539校）が利用するとしており、その内訳で見ると国立大学は95.1%（78校）、公立大学が85.7%（78校）、私立大学は65.2%（383校）となっています。公私立短大は29.5%（91校）が利用するとしており、これら全てを含めると59.0%の学校が利用することになっています。県内の4年制大学では秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、秋田公立美術大学、秋田看護福祉大学、ノースアジア大学が利用するとしており、日本赤十字秋田看護大学は利用しないとしています。

この入試制度で注意が必要なことは、英語民間検定試験の成績をどのように利用するのかは各大学や短大に任せられているということです。具体的には「一定水準以上の成績を出願資格とする」、「個別選抜の英語の得点に加点する」などがあり、それは各大学や短大の考え方に基くとされています。従って、自分が進学する予定の学校の利用状況をあらかじめしっかりと把握しておき、目標とする成績を定めながら準備をしていかなければいけないということです。学校によってはそれほど高い成績を要求していない場合もあり、その場合はこの検定試験にそれほどウエイトを置かなくてもよいということになりますが、点数化する学校、特に高い成績の場合非常に有利になる学校を受験する場合は、しっかりと対策をして検定試験で好成績を得ることで入学試験を非常に有利にすすめることができるということになります。

各大学・短大がどのように成績を利用するかについては、現在文部科学省がとりまとめを行っており、近日中にホームページで公表されることになっています。（文部科学省大学入試英語ポータルサイト http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1420229.htm を参照してください。）また、各大学や短期大学のホームページでも最新情報や活用についての詳細が発表されている場合がありますので、そちらも参照してください。

脳のクセ

人間の認知には歪み、脳のクセのようなものがあるといわれています。これは大昔に危険と隣り合わせて生活していた時は危険を回避するのに役に立っていましたが、安全が確保されコミュニケーションが複雑になった現代には、逆に人間を悩ませるものとなっています。代表的には ①全か無か思考＝白でなければ黒でしかない、グレーはない ②行き過ぎた一般化＝「いつも…」とか「決して…」とかという考え方 ③心のフィルター＝たった一つの些細な欠点だけを捉えて他の事を無視する ④マイナス化思考＝成功や喜びの価値を割引く ⑤結論の飛躍＝具体的根拠もなく結論を急ぎ物事を否定的に考える ⑥誇大視と過小評価＝抱える問題、短所を必要以上に大袈裟に考え、自分の能力や長所を低く見積もる ⑦感情的な決めつけ＝嫌なものは嫌、ダメなものはダメ ⑧すべき思考＝「…すべきである」「…しなければならない」という考え方や言動 ⑨レッテル貼り＝自分勝手に物事を決めつける ⑩自己関連づけ＝自分には関係なくても「自分が悪い」と責任を感じ自分を責める の10種類があると言われています。この思考にはまってしまうと、自分の持っている能力や可能性を自分でつぶしてしまったり、常に不安を抱えることになってしまいます。このクセに捉われていないか、時々考えてみてください。

